

水遊びでの事故事例と防止対策

水遊びでは、濡れた床などで滑って転び、頭をぶつけるという事故が報告されています。また溺れた場合には、そのまま死亡してしまうという重大な事故につながる可能性が高くなります。

保育施設での水遊びは、「水に親しむ」、「約束を守る」、「健康づくり」、「挑戦する気持ちを高める」、「友達とコミュニケーションを図る」、「着替えなどを通じて日常生活で自分のことが自分でできるようになる」など、さまざまなメリットがあり、子供の運動能力や自立心に大きな役割を果たすものです。危険性が高いからといって、なんでも禁止すればいいというのは本末転倒といえます。

保育者が水遊びの危険性についてよく知り、危険な場所や事故を防ぐための方策を正しく理解することにより、安全に水遊びが行えるよう心がけましょう。



水遊び事故の事例

事故事例

- ・ 保育施設での水遊び中、3歳の男児が水深20cmあまりのプールでうつ伏せに倒れているのが発見され、担任の保育者によってすぐにプールから引き上げられ、近くの診療所に搬送、そこから救急搬送されたが、間もなく死亡が確認された。
- ・ 事故当時、幼児11人に対し、保育者が1人で指導・監視を担当しており、水遊び遊具の片付けも同時に行っていたため、監視に空白時間が発生した。
- ・ 救命処置を適切に行うことができる保育者がいなかった。
- ・ 緊急時の対応手順について、文書で取りまとめたものがなかった。

出典：消費者安全法第23条第1項に基づく事故等原因調査報告書（消費者安全調査委員会）

水遊びにおける幼児の特性とリスク



- 幼児は体の割に頭が大きく重いため、重心が高くなり、転倒しやすい。



- 腕力が弱いため、自分の体を支えたり、起き上がることが難しい。



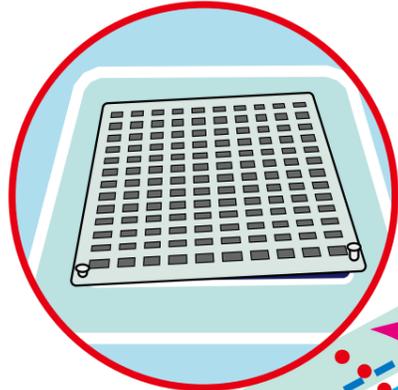
- うつ伏せで倒れた場合、水深が浅くても鼻と口が水没して溺れることがあり、特に幼児の場合は対処能力が未発達なため、気管内に水が入ると、もがくことなく溺れてしまうことがある。



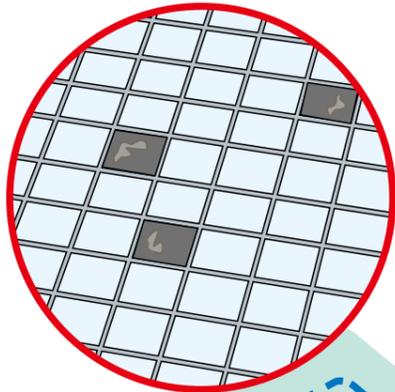
- 特に小さいプールでは幼児が密集するため、中で倒れても発見が難しい場合がある。

危険な場所はどこ？

- 排水口の蓋はきちんと閉まっていますか？はずれやすくなっていませんか？



- プールの底や周辺のタイル・コンクリートは破損していませんか？



- シャワーや目の洗浄器は清潔で、正常に働いていますか？



- プールサイドなどに必要のない物を置いていませんか？



- 幼児の数とプールの広さは合っていますか？



- プールサイドやすのこが滑りやすくなっていませんか？

※シーズンの始めには、必ず点検を行い、必要に応じて専門業者に点検・整備してもらいましょう。

水遊び事故を防ぐために

保育施設の対策

監視業務と指導業務の役割分担

監視をする保育者と指導をする保育者を複数で分担し、監視をする保育者は監視以外の業務を絶対に行わず、『空白の時間』を作らないようにしましょう。

安全を優先する認識の共有

保育施設全体で話し合ったり、情報を共有することにより、監視をする保育者に別の仕事を頼んだり、危ない場所を放置したりしないようにしましょう。

監視者が監視業務に専念できる環境の整備

保育者の配置を工夫することにより、監視に専念できる人員を確保するよう保育施設全体で取り組みましょう。

異常の早期発見への工夫

例えば水着や帽子の色を目立つ物にする、プールの広さに応じて水遊びをする幼児の数を増減するなどの工夫をすることにより、異常を早期に発見できるように努めましょう。

救命処置の徹底

プールサイドの邪魔にならない場所に救命処置の方法を書いたパネル等を設置したり、緊急通報用の電話を置くなどして、緊急時の対応が速やかにできる環境づくりをしましょう。

応急手当等の講習

保育施設全体で、応急手当やAEDの使い方、心肺蘇生技術等を学べる場を設けましょう。

